北海道

北海道ヘルスケア産業振興協議会

◆ 地域：北海道
◆ 設立：平成27年4月1日

事務局

㈱北海道二十一世紀総合研究所
TEL：011-231-3053
FAX：011-231-3143
E-mail：health@htri.co.jp

協議会の概要

- ✓ 北海道において、医療・介護機関と民間サービス事業者等との連携を促進することで、地域特性を踏まえたヘルスケア産業を創出・育成し、地域における住民の健康寿命延伸、新産業・雇用創出、医療・介護費の適正化に貢献することを目的としている。
- ✓ １．「ヘルスケア」の多様性を踏まえた異業種連携促進、２． 官民連携による地域ヘルスケア推進の課題解決へのアプローチをコンセプトに新たな事業創出に寄与する取組を推進している。
- ✓ 自主事業としては、ヘルスケア産業の創出に寄与する研究会（勉強会）の開催、ヘルスケア産業に関する情報収集・情報発信等、会員とのマッチング、専門的人材の紹介等、ビジネス化に向けた個別支援、実証サポート等を実施。

主な会員　（会員数：156企業・団体　※令和7年3月末時点）

医療・介護関係機関	北海道医師会、全国健康保険協会北海道支部、社会医療法人禎心会、社会福祉法人渓仁会
ヘルスケア関係	㈱ソプラティコ、㈱SHARE、生活協同組合コープさっぽろ、㈱ポロワッカ、札幌ヤクルト販売㈱
金融機関	㈱北洋銀行
大学・研究機関	北海道大学、小樽商科大学、北海道科学大学、北海道総合研究機構
行政機関	北海道経済産業局、北海道厚生局、北海道、札幌市、東神楽町、東川町、滝川市

PRポイント（協議会の特徴・推進しているヘルスケアサービス、今年度の活動）

✓ 行政機関・大学・大手企業との連携体制を構築していることが大きな強みであり、協議会会員には、自主事業だけではなく、新たな事業創出に資する下記の機会を積極的に提供しています。

1． 北海道経済産業局との連携（テーマ：官民共創）

・自治体のヘルスケア課題解決とヘルスケア産業振興の両立に向けた仕組み・手法に関する検討を進めています。

2． 北海道との連携（テーマ：健康経営の推進）

・健康経営を推進する新たな商品・サービスの創出に向けた支援事業において、協議会会員企業が数多く参画しています。

3． 札幌市との連携（テーマ：ヘルスケア全般）

・市内のヘルスケア関連企業を対象としたビジネスモデルの構築や実証支援に協議会会員企業が数多く参画しています。

4． 大学や大手企業の知見・ネットワークの活用（テーマ：ヘルスケアビジネス創出人材の育成）

・大学や大手企業とが有する豊富な知見や研究者やプレイヤー等とのネットワークを活用し、「地域ヘルスケアの課題解決」「女性の健康づくり」「ヘルスリテラシー向上施策」「健康経営」等をテーマとした会員の学びの場を提供します。

昨年度、もしくはこれまでの活動実績

- ✓ ヘルスケアビジネス実証を通じて、会員間のネットワーク構築・強化や、ビジネスモデルのブラッシュアップを図っています。
- ✓ 経済産業省の実証事業を通じて、複数の案件が事業化しています。

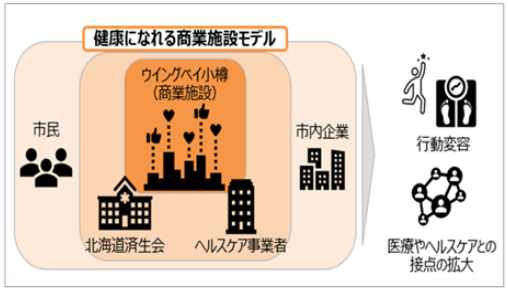
【平成29、30年度事業】

地域スーパーを核とした地域包括ケアシステムの構築を促進する健康ステーションサービス
（札幌市厚別区もみじ台エリア）
北海道ヘルスケア産業振興協議会　地域モデルコンソーシアム（株式会社ホクノー）

- ✓ 人口減少・高齢化が進行している札幌市厚別区のもみじ台地区で、日常生活圏域にある地域の中核的なスーパーが、店舗内に健康ステーションを設置し、健康に繋がるワンストップサービスを当該地区の住民に提供し、「健康づくり」・「居場所づくり」・「役割づくり」を支援する新たな互助の仕組み（アクティブシニアによる生活支援サービス）を構築。
- ✓ 事業の成果としては、①健康ステーション設置に伴うスーパーや食堂の売上効果、②有料化によるステーション運営可能性の確認、③住民の健康改善・健康行動変容効果の確認、④地域の多様な機関との連携体制の構築などがあげられる。

【令和5年度事業】

商業施設や企業との共創による、働く世代の健康無関心層向けの「医療機関の新ビジネス」創出実証



1．実施内容

- 小樽市内の商業施設「ウイングベイ小樽」を拠点に医療機関と共創し、ナッジ手法を有効活用した①商業施設内でのヘルスケアサービス開発、②商業施設内の空間等と効果的なプロモーション方法の確立、③医療専門職による効果的な介入の確立に向けた実証を行い、「健康になれる商業施設」モデル創出を行った。

実証エリア：北海道小樽市
代表団体：株式会社北海道二十一世紀総合研究所
参加団体：北海道済生会、小樽ベイシティ開発、㈱SHAREほか
協力団体：小樽市、協会けんぽ北海道、小樽商工会議所

実証開始当初 As is

人口減少・高齢化による医療・介護費の増大や生産年齢人口の減少により従来の経済・社会システムの維持が困難

2．実際に確認できた成果

- 住民とのタッチポイントの確保
- テーマ性のある企画への感応度が高いことの確認
- 産業保健師による従業員への介入効果の確認
- 医療機関の中長期的なメリットに繋がる横展開画の作成
- 本事業によって、参加者の商業施設の来店頻度向上、医療機関の認知度向上、健康課題解決に寄与したことを確認。

3．To be実現に向けた今後のアクション

【次年度】
- 本実証結果を踏まえたウイングベイ小樽における事業実装
- 本事業で策定した計画に基づく、済生会小樽病院×イオンモール高岡による実証事業の実施
- 済生会本部と連携した新たな横展開先の調査、実証計画の策定
- 北海道ヘルスケア産業振興協議会と連携した本実証成果のPR、道内での横展開候補先の調査

将来 To be

ヘルスケア・予防医療との接点が身近に
健康への意識を持ち、
行動につながられる
住み続けたいまちへ

◆おもな自主事業内容

（１）国内・海外の最新のヘルスケアトレンドを学ぶための勉強会【会員限定】（年３回程度）
（２）道内のヘルスケアコンテンツの情報を共有するための交流会等【会員限定】
（３）協議会活動等の普及【オープン】
（４）ビジネス化に向けた個別支援【適宜実施】